様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第１面）

産業廃棄物処理計画書

2026年　6月　23日

茨城県知事　　大井川　和彦　殿

提出者
住　　所　　茨城県古河市北利根14-2
氏　　名　　ジャパンフリトレー株式会社
代表取締役　　石辺　秀規
電話番号　　0280-92-3211

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	ジャパンフリトレー株式会社
事業場の所在地	茨城県古河市北利根14-2
計画期間	2026年4月1日　から　2027年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	09　食料品製造業
②事業の規模	
②従業員数	250人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	汚泥　　発酵堆肥化、焼却 動植物性残渣　　発酵堆肥化、焼却 廃プラスチック　　RPF化、粉砕→リサイクル 廃プラスチック　　焼却 木屑　　破砕→リサイクル ガラス、陶磁器屑　　破砕→リサイクル 蛍光灯　　選別、破砕→再生 廃油　　油水分離→再製品化 廃酸　　中和、蒸留、油水分離

（日本工業規格Ａ列４番）

茨城県
令－8.6.25
県西県民センター
受付

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

（管理体制図）
生産本部長（廃棄物統括処理責任者）　→現場担当者（廃棄物管理担当者）

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和 6 年度）実績】	別紙詳細 1 添付	
	産業廃棄物の種類		
	排　出　量	t	t
	（これまでに実施した取組）		
② 計画	【目標】	別紙詳細 1 添付	
	産業廃棄物の種類		
	排　出　量	t	t
	（今後実施する予定の取組）		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組）

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（　　年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
①現状	【前年度（　　年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t
	（今後実施する予定の取組）		

<table>
<tr><td colspan="4">自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項</td></tr>
<tr><td rowspan="4">①現状</td><td colspan="3">【前年度（　　年度）実績】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>自ら埋立処分又は
海洋投入処分を行った
産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（これまでに実施した取組）</td></tr>
<tr><td rowspan="4">②計画</td><td colspan="3">【目標】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>自ら埋立処分又は
海洋投入処分を行う
産業廃棄物の量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（今後実施する予定の取組）</td></tr>
<tr><td colspan="4">産業廃棄物の処理の委託に関する事項</td></tr>
<tr><td rowspan="8">①　現状</td><td colspan="3">【前年度（令和６年度）実績】　　別紙詳細２添付</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>全処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>優良認定処理業者への
処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>再生利用業者への
処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>認定熱回収業者への
処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>認定熱回収業者以外の
熱回収を行う業者への
処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（これまでに実施した取組）
委託先の現地確認
チェックシートを用いての現地状況確認</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="8"></td><td rowspan="8">②計画</td><td colspan="3">【目標】</td></tr>
<tr><td>産業廃棄物の種類</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>全処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>優良認定処理業者への処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>再生利用業者への処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>認定熱回収業者への処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td>認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量</td><td>t</td><td>t</td></tr>
<tr><td colspan="3">（今後実施する予定の取組）

委託先の現地確認
チェックシートを用いての現地状況確認</td></tr>
<tr><td colspan="2">※事務処理欄</td><td colspan="3"></td></tr>
</table>

備考

1　前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。

2　当該年度の6月30日までに提出すること。

3　「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。

(1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。

(2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。

(3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。

4　「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。

5　「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。

6　それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。

7　※欄は記入しないこと。

≪別紙１≫

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

③2025年度結果	2025年度実績			
	廃棄物の種類	排出量		これまでに実施した取組
	汚泥	1,162.63	t	脱水汚泥の含水率維持 シーズニング汚泥削減
	動植物性残渣	425.52	t	各倉庫での製品廃棄減少(製品寄付実施あり)
	廃プラスチック	87.73	t	自社内(生産時使用プラごみと一般ごみ)分別の強化 製造元への空容器返却、回収依頼継続
	木くず	1.26	t	主に運搬(納品)で発生する木パレ、木枠の為、削減取組は困難な状況
	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	0.8	t	廃棄の削減
	蛍光灯	0	t	LED化 蛍光灯の引取依頼回数を削減
	廃油	0.014	t	(使用残)廃棄の削減
	廃酸	0.2	t	(使用残)廃棄の削減
④計画	目標（2026年度）			
	廃棄物の種類	排出量		今後実施する予定の取組
	汚泥	1,200	t	脱水汚泥の含水率維持 シーズニング汚泥の分別、有価物へ 汚泥乾燥機の導入検討
	動植物性残渣	450	t	コーン廃皮ロス量増加の対策検討 有価物への取り組み
	廃プラスチック	90	t	マテリアルリサイクルへの取り組み 製品用梱包フィルムのロス削減
	木くず	1.5	t	分別の強化
	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	1	t	分別の強化
	蛍光灯	0.1	t	LED化
	廃油	0.5	t	(使用残)廃棄の削減
	廃酸	0.2	t	(使用残)廃棄の削減

≪別紙2≫

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

③2025年度結果	実績（2024年度）								
	廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃プラスチック	木くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	蛍光灯	廃油	廃酸
	全処理委託量	1,162.63	425.52	87.73	1.26	0.8	0	0.014	0.2
	優良認定処理業者への処理委託量	557.32	412.97	79.96			0	0.014	
	再生利用業者への処理委託量	1,162.63	425.52	87.73	1,26	0.8	0	0.014	0.2t
	認定熱回収業者への処理委託量								
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託		44.61		1.26	0.8			
	これまでに実施した取組 ・委託先の現地確認								
④2026年度計画	目標（2026年度）								
	廃棄物の種類	汚泥	動植物性残渣	廃プラスチック	木くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	蛍光灯	廃油	廃酸
	全処理委託量	1,200t	450t	90t	1.5t	1.0t	0.05t	0.5	0.2t
	優良認定処理業者への処理委託量								
	再生利用業者への処理委託量								
	認定熱回収業者への処理委託量								
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託								
	今後実施する予定の取組 ・委託先の現地確認 ・コーン廃皮ロスの飼料化、有価化								